



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

独り子を給うほどの神の愛



ヨハネ 3 章 16 節
前アシュラム連盟理事長
牧師 横山 義孝

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヨハネ福音書の 1 章 1 節から 4 節には、次のようにあります。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。」

創世の初めにおいて、すでに言なるお方がおられました。このお方が父なる神とともにおられて、万物の業に参与されたのです。いうなれば、このお方が第二位格でありこれに聖霊の位格が加わって三位一体の神となるのです。

父なる神が、子なる神をどんなに愛しておられたかを推測することができます。その愛してやまなかった御子イエスをこの世に送ってくださったのです。何のためでしょうか。それは、自ら入り込んで罪の内に閉じ込められた人間を罪から救い出すためです。罪とは神に対する離反です。

神は、人間を愛するゆえに、これを神と等しく永遠に生きる者としてくださったのです。ところが、人間は罪を犯し、その罪の罰として地獄の苦しみを味わうこととなりました。そこで父なる神は、人間が受けねばならない地獄の苦しみを御子が代わって受けるようにされたのです。イエスが進んで十字架において経験された苦しきは、自らが犯した何かの罪の結果ではなく、私たちの罪の

結果であったのです。ルカ福音書 23 章 26 節以下には、十字架の上のイエスの身代わりとしての死について記されています。

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」このイエスの言葉を聞いた罪人の一人が「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、私を思い出してください」と、十字架の上から願います。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園（パラダイス）にいる」と、彼に告げました。イエスのご自身で何か罪を犯して、十字架にかけられたわけではありません。ピラトの裁判では「お前は神の子か」と聞かれましたが、主は言なるお方として創造のわざに参与されたから、事実神の子なのです。またヨハネ 1 章 14 節には「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」とあります。まさにキリストは、人間が、私が犯した罪のゆえに、罪人の一人となって私が負わなければならない罪の裁きを代わって受けてくださり、贖い（罪の買い取り）の死を全うしてくださったのです。そして、贖いの死から三日目によみがえられたのでした。（マタイ 16 章 21 節）

人間である私とその罪のゆえに永遠の罰を受けても、御子には何の関係もありません。人間が滅びるだけです。ところが神は、その人間が滅びることを良しとせず、このことに関わり、救おうとされたのです。罪のないイエスが私の罪を引き受け、自ら身代わりとなって罰を受けてくださったのです。

「それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。」（ローマ 8 章 4～6 節）

霊想 御言葉を食べる喜び



日本基督教団 更生教会

牧師 山口 紀子

「あなたの言葉が見いだされたとき私はそれを食べました。あなたの言葉は私にとって喜びとなり私の心の楽しみとなりました。」

エレミヤ 15 : 16

普通、御言葉は「聞く」ものです。ところがおもしろいことに、聖書はそれを「食べる」とも表現します。

食べることに私たちは敏感です。食べた物がダイレクトに私たちの体を造ることを知っているからです。年末年始はご馳走をいただく機会の多い季節。せっかくだからと油断していると、それが確実に体調に、体形に表れます。皆それがわかっていますから、食べ物に気をつけるわけです。

食べた物が確実に体を造るように、食べた御言葉が、確実に私たちの心を…もっといえば私たちの霊性を養い育てます。

こんな例話を聞きました。「ある米国の説教者がこういう話を紹介したそうです。『カッコウは英国ではよく見かける鳥です。春の訪れはその鳴き声でわかると言われていました。実はこの鳥、自分で巣を設営することはありません。産卵期になると、卵が入ったほかの巣を見つけ、親鳥が留守の間に大急ぎでそこに産卵するのです。カッコウの「親業」はそこまでです。巣に侵入されたツグミの母鳥が戻ってきます。しばらく巣の周りを巡回してから巣に入りますが、卵が増えていることに気づきません。そしてそのまま卵を抱き始めます。数日後、4羽の小さなツグミと1羽の大きなカッコウが孵化します。カッコウのヒナはツグミのヒナの2倍から3倍の大きさです。

母鳥はヒナを育てるために朝早くから虫の捕獲に当たります。巣に戻るとヒナに餌を与えますが、結局は大口を開けて待っているカッコウのヒナが大半の餌を腹に入れます。サイズの大きなヒナはますます大きくなり、サイズの小さいツグミはますます小さく痩せ細っていきます。

カッコウのヒナがいる巣を見つけるのは簡単です。垣根沿いにしばらく歩けばツグミのヒナの死骸が落ちている場所に来ます。その上に巣があるのです。カッコウのヒナが、ツグミのヒナを1羽ずつ巣から追い出したのです。それにもかかわらず、ツグミの母鳥は自分のヒナの3倍もあるカッコウの赤ちゃんにせっせと餌をやり続けます。』

この話には教訓があります。私たちの心（巣）には2つの性質（ヒナ）が宿っています。多くの餌を与えた方の性質は成長し、餌を与えない方の性質は飢餓状態に陥ります。神に喜ばれる姿になるためには、善い性質により多くの餌を与える必要があります。」（「ハーベストタイム」vol.345）

ここで「善い性質」と言われているのが私たちの霊性といえます。肯定的な言葉や文学、音楽など、私たちの心を豊かにしてくれる言葉はほかにも存在しますが、神が与えてくださった霊を養えるのは神だけです。神の言葉を食べなければ、私たちの霊性はツグミのヒナのように飢え渴き、瀕死の状態に陥ってしまいます。

次に、これは預言者エレミヤの告白であることに注目します。順風満帆、平穩無事な人物による、「あれこれ食べ物はあるけれど、その中で神の言葉があったから食べましたよ、美味しかったですよ」という薄っぺらい告白ではありません。神の言葉しかないのです。彼が語り伝える言葉、それは神の怒りを告げ、人をさばくものでした。ここに預言者の苦悩があります。ところが私たちは今や、イエス・キリストの和解の言葉、赦しの言葉、すなわち福音を食べることが許されているのです。

「あなたの言葉が見いだされたとき私はそれを食べました。」「見いだされる」とは「見つける、出会う、会う」という意味の言葉。私たちは神の言葉によって神と出会います。そうして、私たちはその御言葉を食べます。「食べる」という言葉には「食べ尽くす」というニュアンスがあります。それで、新共同訳は「わたしはそれをむさぼり食べました」と訳しました。「むさぼり食べる」、つまり飢えているのです。それほどの霊的飢え渴きがあなたにはあるでしょうか。

第 59 回関東アシュラムの恵み

日本基督教団無任所教師 連盟理事 牧師 柏 明史
イエスは主である！

コロナ禍もようやく落ち着きを見せてきた 9 月 16～18 日、第 59 回関東アシュラムが久しぶりに山崎製パン箱根山荘で、素晴らしい環境と心の込もったおもてなしの中で行われました。

「こころは御言葉の格納庫」という主題のもとに、新宿西教会牧師の深谷春男師が助言者として立てられ、詩編 119 編から御言葉を取り次いでくださいました。心に御言葉を蓄えていることこそが、誘惑や試練に対する最大の防御であり、また罪に対する最強の免疫力となる（詩編 119：9～16）。だから、いつも御言葉を心の格納庫に満たし、主を賛美し続ける生涯を送ろう。主に向かって心からほめ歌いなさい「making melody in your heart」（エフェソ 5:19、NKJV）との力強い呼び掛けに心を揺り動かされました。

また、主は善（トープ）にして善をなされるお方。苦しみや挫折さえも最後には最善へと変えてくださるお方。善きもので満ち満ちておられるお方であることを、詩編 119：68～71 を通して丁寧に説き明かして下さり感謝でした。

静聴の時に味わった御言葉の深み、祈りの細胞での親しい分かち合い、賛美と証の時の思いがけない恵みの数々、そして充満の時に一人一人に与えられた豊かな祝福。そのすべてを通して「イエスは主である」との確信を新たにすることができました。

最後に来年の第 60 回関東アシュラムでの再会を約して、大きな恵みを胸に抱きつつ、箱根の山を下りました。素晴らしい三日間に感謝。ハレルヤ！



第 55 回九州アシュラム

日本基督教団 下関教会 信徒 末益 育子

九州アシュラムは、9 月 22 日(日)～23 日(月)に NHK 朝ドラの舞台となっている福岡県糸島市の寺田惟清兄・キャロリン姉ご夫妻のお宅で行われました。ご夫妻の温かいおもてなしと、小高い森の丘から糸島の海を一望できる広いパノラマ景観の中で心身共に癒され一同感謝しました。「イエスは主なり」を合言葉に開始。主題は「義人は信仰によって生きる」で、岡山敦彦師を助言者として行われました。

一日目。22 日午後 5 時に集合。弁当の夕食後、オリエンテーション、開心の時、連鎖祈祷表に名前を記入、祈りの細胞で自己紹介と交わり、その後ホテルに移動。二日目。23 日午前 5 時 30 分起床、静聴と祈りの細胞、家長の部屋で分かち合い。朝食を済ませ、会場へ戻りました。昼食をはさんで 2 回の福音の時を持ち、午後の充満の時は大いに恵まれました。

今回は実に 5 年ぶりのアシュラムで、ひたすら主の御声に聞き、御言葉を深く味わい、信仰・希望・愛の喜びに満たされました。このたびは 15 名の参加者



でした。新しい方も数名参加されました。来年の開催を願い、再会を楽しみに帰路に着きました。『糸島の花野に海のアシュラム会』

第 57 回関西アシュラム

日本基督教団 香櫨園教会 牧師 宮本 幸男

第 57 回 関西アシュラムは、9 月 23 日(月・祝)、8 教会 25 名が大阪クリスチャンセンターに集まって開催されました。「教会への奉仕と伝道～愛に生かされ、愛に生きる」との主題のもとに、「開会礼拝」、「開心の時」「福音の時」「静聴の時・分かち合い」「祈りの細胞」「充満の時」が持たれ、最後は「イエスは主である」と三本指を上げて、一日の恵みに感謝しつつ閉会しました。

助言者には日本アシュラム連盟理事で、前・茅ヶ崎恵泉教会牧師の柏明史先生をお迎えし、エレミヤ書 31 章 1～3 節、31 章 20 節、ホセア書 11 章 8 節から「強すぎる愛に苦しめる主」と題して、またエフェソの信徒への手紙 2 章 1～10 節から「主の愛に答えて」と題してのメッセージを聞かせていただきました。

今回のアシュラムを通して、私たちはキリストを十字架に付けるほどの「父なる神の気絶するような強い愛」によって救われたこと。その愛によって押し出され、救いの恵みに応えて踏み出すという「恵み+応答=信仰の成長」の方程式を歩むときに、真の「教会への奉仕と伝道」ができる者へと変えられていくことを学び、励ましをいただきました。



第 16 回函館栄光キリスト教会ミニ・アシュラム

函館栄光キリスト教会 信徒 片山由美子

10 月 14 日 (月・休)、横山基生師 (日本基督教団志木教会牧師) を助言者としてお迎えしました。「わたしの平和を与える」(ヨハネ 14:27) の主題のもと、ヨハネ 14 章~16 章を読み準備しました。

横山基生師は前連盟理事長の横山義孝師のご子息で、親子 2 代にわたり助言者としてお迎えできたことに感謝です。

当日は、当教会から 18 名、他教会からは 12 名が出席し、日程は、開心の時、静聴と恵みの分かち合い、福音の時 I 「わたしの平和をあたえる」(ヨハネ 14:25-31)、祈りの細胞、福音の時 II 「わたしはまことのぶどうの木」(ヨハネ 15:1-7)、充満の時の順で進められましたが、福音の時 I と祈りの細胞の間に昼食、写真撮影があり、新しく参加された方々(4 名)と自己紹介、そして毎年参加されている方々(26 名)とまた会えた喜びを分かち合いました。

横山基生師のヨハネ福音書を中心としたメッセージでは、フライパンのテフロン加工の話——くっつかない、引きずらない、中に入れない、中にはイエス様がいるから、私たちのオーナーはイエス様だから。そして主は最善な時に最善の方法で最善をされる。主は最善をして下さると受けとめるなら平安であり、乗り越えることができる——など力強いお話が心にしみました。祈りの細胞では、ニードを語り、祈りあい、そして充満の時を迎えました。皆さんの受けた恵



みの感想を聴き、最後は手をつなぎ讃美歌を高らかに歌い、神様への賛美と感謝に満ち溢れました。

10 月 19 日(土)午後から 20 日(日)午後までの日程で、第 37 回浦和別所教会アシュラムを開催致しました。

今年度は、「あなたがたは、上にあるものを求めなさい」を主題とし、コロサイの信徒への手紙 1 章から 3 章を中心に御言葉に聴くプログラムと致しました。この主題のもと西海満希子牧師をアシュラムの導き手としてお迎えし、霊的な指導をしていただきました。

昨年、私たちは、コロナ禍による交わりの自粛で、霊的なものが乱れていたのではないかと思っています。というのも、昨年のアシュラムに関し、出席者の何人かの方から、どこかしら霊的に落ち着きがなく、ただ集会をこなした印象が強かった、もっと新しい形を考えるべきではないかとの意見が出されました。この声をもとに役員会で話し合った結果、アシュラムは、教会の信仰を支えている大切な働きであるから、今年度も同じ形で実行しようとの結論を得ました。

今回のアシュラムにおいては、3 つのグループで、お互いの信仰の悩みや課題を、それぞれに語り合い、主題にある「上にあるものを求めなさい」という御言葉に励まされる豊かな時となりました。アシュラムを終えて、聖書を開いた時、ヘブライ人への手紙 12 章 14 節の「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません」という御言葉を示されました。この言葉から、私たちの教会アシュラムは、この御言葉の「聖なる生活を追い求めなさい」という導きを体現する働きであり、欠かすことのできないものであることを示され、主に深く感謝



しています。この恵みを教会員とも分かち合い、このアシュラムを続けてゆきたいと思っております。

浦和別所教会アシュラム報告

日本基督教団 牧師 澤田石秀晴

アシュラム予告

- 第 56 回城北アシュラム
日時・2 月 11 日 (火祝)
場所・池の上キリスト教会
助言者・千代崎備道師
- 第 3 回戸畑高峰教会アシュラム
日時・4 月 28 ~ 29 日 (月~火祝)
助言者・岡山敦彦師
- 第 56 回九州アシュラム
日時・9 月 14 ~ 15 日 (月~火祝)
場所・鳥栖日韓文化交流センター
助言者・深谷与那人師
- 第 60 回関東アシュラム
日時・9 月 22 ~ 24 日 (月~水)

そのほか、予定されているアシュラムを事務局にお知らせください。

献金のお勧め

新年にあたりアシュラムへの献身として、この運動のためにお献げいただけないでしょうか。様々な物価上昇のなか大変恐縮ですが、アシュラム誌印刷代、送付費用、事務費、理事会費等に用いさせていただきます。幸いです。お祈りください。

編集後記

各地のアシュラムの報告を見て、やっと各地のアシュラムの足並みがそろった思いがします。コロナの感染拡大で、各地のアシュラムが工夫をこらして活動していましたが、ごく普通にアシュラムが開け神の家族の再会の恵みを味わわれたことでしょう。

さらに各地の交流が深められることを期待します。各アシュラムが活発に行われることが、アシュラム全体の活性化につながります。

岡山敦彦